

2026年度版 製品審査 審査基準根拠

製品区分	大分類	中分類	小分類	重要度	申請区分
I群	擁壁工	ブロック積擁壁	控え35cmの大型ブロック積	2	製I-擁壁-2

審査項目及び審査基準				根拠 (RPCA審査基準が満足する道路土工関係指針等)
中項目	小項目		審査基準	
荷重	自重	単位体積重量	無筋コンクリート 実際の単位重量であること。	『道路土工 擁壁工指針』4-2-2 自重
		裏込め土		
	土圧		「経験に基づく設計法」のため合格とみなす。 「道路土工擁壁工指針」および「道路PCa工指針」の表5-3参照	『道路土工 擁壁工指針』5-7-4 ブロック積(石積)擁壁
	載荷重 荷重の組合せ			
材料及び設計諸定数	積ブロック		JIS A 5372に適合していること。	JIS A 5371
	コンクリート	設計基準強度	製品:「入力マニュアル」参照	
			胴込め: $\sigma_{ck}=18\text{N}/\text{mm}^2$ 以上であること。	『道路PCa工指針』
	裏込め土 土の単位体積重量 γ 内部摩擦角 ϕ 、土質			
基礎地盤の土質定数	擁壁底面と地盤との摩擦係数 μ	「経験に基づく設計法」のため合格とみなす。 「道路土工擁壁工指針」および「道路PCa工指針」の表5-3参照	『道路土工 擁壁工指針』5-7-4 ブロック積(石積)擁壁	
	基礎地盤の許容支持力度			
許容応力度	積ブロック	コンクリートの許容曲げ圧縮応力度	JISの場合は合格とみなす。 それ以外は「道路PCa工指針」参照	『道路土工 擁壁工指針』4-5-2 コンクリートの許容応力度
		コンクリートの許容せん断応力度		
	胴込め、裏込めコンクリート部 (無筋)	コンクリートの許容曲げ圧縮応力度		
		コンクリートの許容曲げ引張応力度	「経験に基づく設計法」のため合格とみなす。 「道路土工擁壁工指針」および「道路PCa工指針」の表5-3参照	『道路土工 擁壁工指針』5-7-4 ブロック積(石積)擁壁
コンクリートの許容せん断応力度				
安定性の照査	滑動	安全率		
	転倒	合力の作用位置	「経験に基づく設計法」のため合格とみなす。 鉛直地盤反力度が許容鉛直支持力度以下であること。	『道路土工 擁壁工指針』5-7-4 ブロック積(石積)擁壁
	支持力	許容支持力度		
部材の安全性の照査	解析方法			
	構造耐力	擁壁本体	曲げ応力度	「経験に基づく設計法」のため合格とみなす。 鉛直地盤反力度が許容鉛直支持力度以下であること。
			せん断応力度	
	積ブロック	曲げ応力度	コンクリート打設時及び施工時の外力に対して構造的に問題がないこと JISの場合は合格とみなす。	『道路土工 擁壁工指針』5-4 部材の安全性の照査
せん断応力度				
耐久性	積ブロックのかぶりの最小値	かぶりは「入力マニュアル」によること。 JISの場合は合格とみなす。	『コンクリート標準示方書 設計編:標準』9.3 かぶり	
	場所打ち部のかぶり	場所打ち部分は70mm以上(構造鉄筋)	『道路土工 擁壁工指針』5-6-4 鉄筋のかぶり	
構造細目	鉄筋のあき	鉄筋のあきの最小値	粗骨材の最大寸法5/4以上かつ鉄筋径以上であること。	『2017年制定 コンクリート標準示方書(設計編:標準)』9編 プレキャストコンクリートの前提9.4 鋼材のあき
	配力鉄筋		主鉄筋の1/6以上であること。	『道路土工 擁壁工指針』5-6-10 配力鉄筋及び圧縮鉄筋
	鉄筋のフック及び鉄筋の曲げ形状	フック、曲げ内半径	『道路PCa工指針』第2編 コンクリート編 [21]~[23] 鉄筋コンクリート製の道路PCa製品の構造細目参照 ※鉄筋のフック曲げ形状	『道路橋示方書・同解説(H29)(Ⅲコンクリート橋・コンクリート部材編)』5.2.6
	鉄筋の定着	鉄筋の定着長	主鉄筋の定着はフックによる定着を基本とする。フック以外の定着については鉄筋の必要定着長を確保する。(『道路PCa工指針』第2編 コンクリート編 [21]~[23] 4.5鉄筋の定着長 4.6鉄筋のフック及び曲げ形状 4.7鉄筋の継ぎ手参照)	『道路橋示方書・同解説(H29)(Ⅲコンクリート橋・コンクリート部材編)』図-解5.2.4
	鉄筋の継手	継手部、継手長	『道路PCa工指針』第2編 コンクリート編 [23]~[25] 鉄筋コンクリート製の道路PCa製品の構造細目参照 継手が1カ所に集中した場合の重ね継手長は下記以上とする。 $L_a = \sigma_{sa} \times \phi / 4 \tau_{oa}$	『道路土工 擁壁工指針』5-6-8 鉄筋の継手
	最小鉄筋量		部材断面積の0.15%以上であること。	『道路橋示方書・同解説(Ⅲコンクリート橋編)平成24年3月』6.4 最小鋼材量
	水抜き孔	水抜き孔の有無	擁壁に2~3㎡に1カ所の割合で内径5~10cm程度水抜き孔を設置していること。(見え高さ)	『道路土工 擁壁工指針』5-9-2 表面排水工及び裏込め排水工(2)裏込め排水工(6)水抜き孔
水抜き孔の径、配置状況は適正か				
その他の仕様	擁壁の根入れ	根入れ深さ Df	基礎上面から50cm以上確保されていること。	『道路土工 擁壁工指針』5-3-2 直接基礎の擁壁における擁壁自体の安定性の照査(2)根入れ深さ
	基礎コンクリート	設計基準強度		『道路土工 擁壁工指針』4-4-2 コンクリート
		厚さ	JISの場合は合格とみなす。 それ以外は設計・施工要領等に仕様記述があること。「道路PCa工指針」第4編 擁壁工編 [53] 7.1 PCaブロック積擁壁の特徴と適用範囲及び[55] 7.2 設計方法、[56] 7.2.2 PCaブロック積擁壁の配置上の留意点及び[54]表7.1-1 参照	『道路PCa工指針』
	基礎材	使用材料		『道路土工 擁壁工指針』5-11-2 基礎工
		厚さ		『道路PCa工指針』
排水工	排水工の形状	『道路PCa工指針』第4編 擁壁工編 [28] 4.7排水工参照	『道路土工 擁壁工指針』5-9-2 表面排水工及び裏込め排水工	

2026年度版 製品審査 審査基準根拠

製品区分	大分類	中分類	小分類	重要度	申請区分
I群	擁壁工	ブロック積擁壁	控え35cmの大型ブロック積	2	製I-擁壁-2

審査項目及び審査基準			根拠 (RPCA審査基準が満足する道路土工関係指針等)
中項目	小項目	審査基準	
施工	施工マニュアル	施工の手順	『道路PCa工指針』
		施工上の留意点	
		施工上の適用条件	
製品の品質	外観	検査頻度・方法・項目、判定基準、不合格の処置	『JIS Q 1012』B.1 製品の管理
	形状寸法	検査頻度・方法、測定箇所、形状寸法及び寸法許容差、判定基準、不合格の処置	
	コンクリートの圧縮強度	試験頻度・方法、判定基準、不合格の処置	
材料の品質	品質	使用する材料の品質	『JIS Q 1012』B.2 原材料の管理
	受入検査	検査頻度・方法・項目、判定基準、不合格の処置	
	貯蔵	貯蔵の管理方法	